

# 当院の膵炎後のWONの重症化因子の検討

## 情報公開文書

日本赤十字和歌山医療センターでは、以下にご説明します研究を実施します。この研究への参加を希望されない場合は、研究不参加とさせていただきますので、下記のお問い合わせ先にお申し出ください。またお申し出された場合でも、いかなる不利益を受けることはございませんので、ご安心ください。

### 研究目的

急性膵炎の致命率は近年著名に改善していることが報告されていますが、いまだに重症膵炎では死亡例が多いです。その原因の一つとして急性膵炎発症後の膵局所合併症があり、2012年改訂Atlanta分類では、液体成分のみで構成される急性膵周囲液体貯留(APFC)と膵仮性嚢胞(PPC)、壊死物質や液体を混じた固体成分から構成される急性壊死性貯留(ANC)と被包化壊死(WON)に分類されています。膵局所合併症を生じた際に保存的加療で軽快する症例がある一方で、保存的加療で改善が得られずインターベンション治療が必要となる症例もあり、その際に合併症が起こることもあり、治療に難渋し致死的となる事があります。当院での膵局所合併症を生じた症例、特にWONにおける過去のインターベンション治療の症例を検討することで、膵炎後のWONの重症化因子が判明すれば、治療介入の必要性の基準の一つとなりうる。

### 研究期間

2023年5月1日から2026年4月31日(3年間)の予定

### 研究の対象となる方

2010年2月から2023年2月の間に、当院消化器内科でWONを発症しインターベンション治療を行った方。

### 研究の方法

電子カルテを使用して、匿名情報に加工したデータを使用します。このデータをもとに、膵炎の重症度や予後因子、WONの体積などを統計学的に調査します

### 使用する情報および個人情報の保護

患者さん個人番号(ID)と氏名が含まれていない状態で、電子カルテからデータを抽出します。また研究用パソコンは、インターネットにつなぎません。論文化から10年程度データを保存しますが、その後適切にデータを破棄します。

### 研究資金・利益相反について

該当する利益相反はなく、研究資金は日本赤十字社和歌山医療センターから提供されます。

### 研究計画書などの入手・閲覧方法・手続き

研究計画書などは入手閲覧可能です。ご希望される場合は、下記までお問い合わせください。

### 個人情報の開示にかかる手続きについて

ご自身の情報を閲覧可能です。ご希望される場合は、下記までお問い合わせください

。

研究責任者

外村 晃平 日本赤十字社和歌山医療センター 消化器内科 医師

共同研究者

中野 省吾 消化器内科 医師  
松本 久和 消化器内科 副部長  
上野山 義人 消化器内科 部長

お問い合わせ先

日本赤十字社和歌山医療センター 総務課

電話 073-422-4171 (代表電話)

所在地 〒640-8558 和歌山市小松原通4-20